

新たな始まり

Vol.50

親鸞聖人750回大遠忌

宗門長期振興計画の現状

『聖歌・讃歌集』（仮称）発刊について

1 はじめに

浄土真宗本願寺派総合研究所では、仏教音楽・儀礼研究室の担当業務のひとつとして、仏教音楽作品の調査研究を行っています。

研究所では、明治期に発表されたものから数え、現在までに、約三千曲に及ぶ作品が確認されました。この数は、私たち宗門における仏教讃歌活動が、いかに重要なものであるかを物語っている、といってよいでしょう。

その成果の一つとして、既刊の『仏教讃歌二部合唱』（全十巻）に続き、まもなく『聖歌・讃歌集』第一〜六巻を発刊の予定です。

2 新譜の〈恩徳讃〉だけでも

四十数種類の楽譜がある

— 楽譜の版の問題

私たちの宗門において、もっとも歌われる機会が多い仏教讃歌といえは、親鸞聖人のご和讃わさんに清水脩が作曲した〈恩徳讃おんごく〉でしょう。

昭和二十七年に発表され、一般に「新譜の〈恩徳讃〉」と呼ばれるこの曲については、研究所において確認されただけでも、四十数種類の異なる版の楽譜が存在しています。版を同じくするものを一点ずつ数えれば、その数はさらに何十倍にもなるでしょう。

それだけこの曲が親おんしまれている一方で、一般の音楽活動においても見られるように、同じ曲の異なる楽譜の存在は、



様々な版の《恩徳讃》の楽譜

時として現場に混乱をもたらします。具体的に述べますと、調性（基準となる音の高さ）が異なるなど、伴奏者の力量で

何とかなるようなものから、記載された歌詞の違いなど、その場で簡単に解決できないものまで、多岐にわたっており、楽譜にまつわる問題は、仏教讃歌の普及活動を推進する上で、決して見過ごすことのできないものです。

3 学術的な調査に基づいて

そうした問題を解決すべく、研究所において編纂されたのが、まもなく発刊予定の『聖歌・讃歌集』第一〜六巻です。

この楽譜集では、編纂へんさんに際し、収載する一つひとつの楽曲に対し、さまざまな版を比較検討し、可能であればさらに作曲者自身（あるいはそのアシスタント）による手稿譜まで遡さかのぼって検討するという、校訂作業の過程を踏まえています。

さらにその過程では、それぞれの楽曲について、単に楽譜そのものだけを抑うのではなく、楽曲に関わる

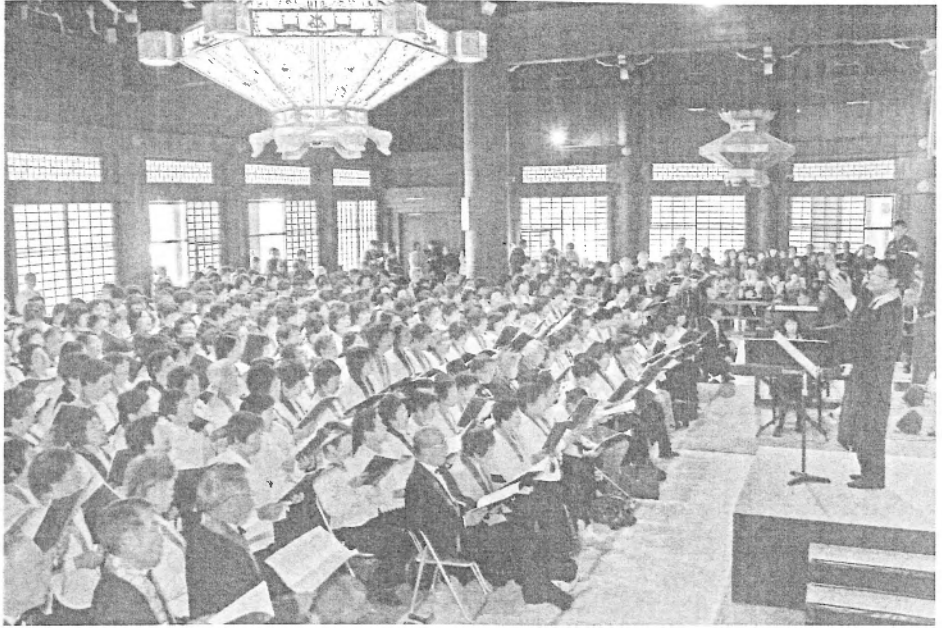
資料（新聞記事など）の調査や、関係者に対するインタビューなど、さまざまな方法で、楽曲の全体像に関わる情報の収集も行いました。

その結果、これまで「不詳」のひとりで済まされていたアマチュアの作曲家の活動状況や、創作（発表）の経緯など、さまざまな事象について、新たな事実が判明しました（これら楽曲関連情報については、別の機会に可能な範囲で公表することを検討中）。

それらの情報は、確かに演奏する上で直接影響するものではないでしょう。しかし、曲の背後にある一つひとつの仏縁は、それを知った上で仏教讃歌を歌えば、さらに人生を豊かにしてくれるに違いありません。

4 『聖歌・讃歌集』の構成

『聖歌・讃歌集』第一〜六巻の構成内容は、次の通りです。ただし、作品によっては、複数に分類されるものもあり、



阿弥陀堂での大合唱（御堂演奏会）

明確にジャンル分けされているわけでは
ありません。

第一巻 音楽法要ならび
に音楽礼拝、お
聖教や親鸞聖
人のご和讃など
をテキストとす
る楽曲、三十八
作品

第二巻 仏さまや親鸞聖
人などを讃える
楽曲、五十七作
品

第三巻 仏事や各種行
事、通過儀礼な
どに関する楽
曲、四十一作品

第四巻 各教化団体の歌
や日々の生活な
どを主題とする
楽曲、四十八作
品

第五巻 仏教徒としての
喜びや生命を
主題とする楽曲、
四十八作品

第六巻 御同朋などを
主題とする楽曲
や

踊りの音楽、BGM用器楽曲
など、四十五作品

なおこれらの楽曲伴奏楽器について
は、宗門の音楽活動で現在もっとも多い
と考えられるピアノを基本としていま
す。

5 仏教讃歌活動の拡がりを 目指して

先に刊行となった『仏教讃歌 二部合
唱』全十巻は、合唱活動のさらなる普及
を目的として編纂され、これまで楽譜の
入手が困難であった、過去の御堂演奏会
等で採り上げた作品などを中心に、二部
合唱用の六十五作品が収載されていま
す。

それに対し、『聖歌・讃歌集』は、広
く宗門の音楽活動の基盤となる楽譜集た
ることを、編纂の目的としています。そ
のため、各地で親しまれている作品や過
去に宗門で親しまれていた作品をも広く

親鸞聖人750回大遠忌 宗門長期振興計画

【基本的な考え方（コンセプト）】

- 『新たな始まり』
～明日の宗門の基盤作り～

【目標】

- 親鸞聖人750回大遠忌法要の修行
- 現代社会に伝える教学・伝道態勢の構築とみ教えに生きる「人」の育成

【重点項目】

- ①法要の修行
- ②記念行事等の推進
- ③協賛行事
- ④伝道態勢の整備
- ⑤時代に即応する教学の振興
- ⑥新たな門徒の誕生（教線の拡充）
- ⑦国際伝道の推進
- ⑧寺院の活性化対策
- ⑨過疎・過密対策
- ⑩地域社会との交流
- ⑪現代社会への貢献
- ⑫人材育成の新規対策
- ⑬既存の人材育成施策の強化
- ⑭宗務機能の点検と拡充
- ⑮境内地等の整備

収載することとなりました（その意味で、この『聖歌・讃歌集』は、まさに私たちの宗門における仏教音楽活動の記録でもあります）。

それぞれの時代やそれぞれの地域で親しまれる仏教音楽とは、決してオーセンティックなものではないかもしれませ

ん。しかしそれらに親しみ、豊かな宗教的生活を営んだ人々が多数いたことは、紛れもない事実なのです。そうした作品

には、編曲されることによって、また新たな生命が吹き込まれることも少なくありません。

この『聖歌・讃歌集』の発刊が、宗門の仏教音楽活動のさらなる発展の契機になれば幸いです。

（浄土真宗本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室）